

# ヴィックスバーグの都市地理的研究

増 田 忠 雄

此の小篇は *Geographical Review* 1931. No. 2 所載  
S. Preston E. James: Vicksburg, a Study in Urban  
Geography の抄譯で、ミシシッピ下流の氾濫原に於ける人口約二萬級の大都市が附近の平野の利用と河川交通に支配せられて發展した徑路を都市地理的に取扱つたものである。

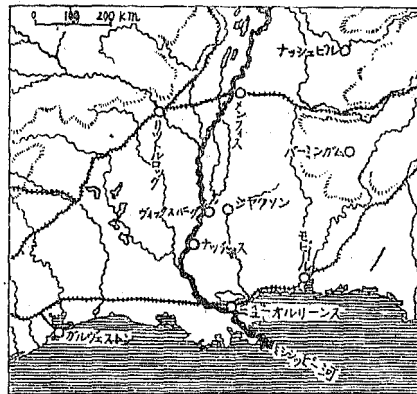
ヴィックスバーグの特異性は此の町の二つの建築物の對照によく表現されてゐる。兩者はミシシッピ河の廣い氾濫原を見渡すことの出来る河成谷崖の斜面に三町と離れない處に立つてゐるが、其の一は古い郡役所である。之は南北戰爭時代以前から此の町の變遷し易い運命を觀守つて來たもので、又河岸の町々が内陸の隣接村落等を侮蔑の眼を以て視ることが出來たやうな時代に溯る傳統の代表者でもある。他の建築物は新しい二十階のホテルで之はヴィックスバーグ

の摩天樓とも云ふべく前世紀の建築様式中に突出してゐて不調和に見えるが、社會生活の若返りの精神を現し、都市景觀の革新開始の象徴である。

一、河岸都市 ヴィックスバーグ地方の或る地點に人口の一核を生じたのは確かに其の位置の優越性に由ると思はれる。ミシシッピ河はメンフィス(Memphis)から南方は屈曲してゐるので河水は肥沃な氾濫原の中央河道を流れて東岸に河成谷崖を残してゐる。其處から一五〇哩以上の下流で此の大河は再び東岸に衝き當る。此の地點から南百哩の間蛇行しながら岸に接近して流れてナッチェス(Natchez)の近くに達する。ヴィックスバーグの最初の位置は急な一群の斜面を持つた可なりの起伏地である。此の地點の河

成谷崖は氾濫原上約一四〇呎の高さに位するが  
ナッチェスの河岸と異つて建築するのに餘り急と

第一圖



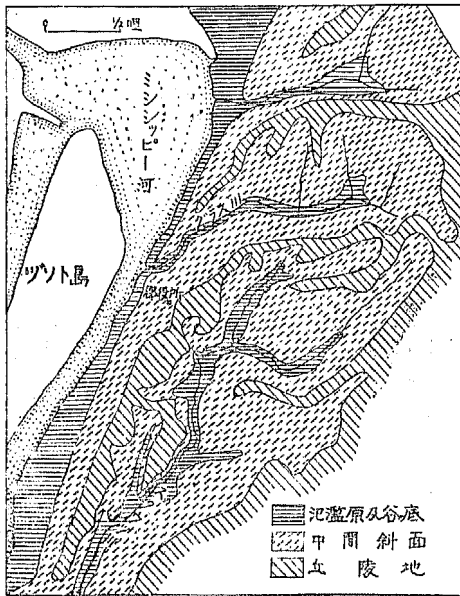
ミシシッピー下流地方

云ふ程  
ではな  
い。此  
の谷崖  
は黄土  
の厚層  
が浸蝕  
せられ  
たもの  
である  
が、黄

土層は下部ミシシッピー氾濫原の大部分に擴が  
り又ヴォックスバークの土地の大部分を形成して  
ゐる。谷崖の背後は樹枝狀に小支流が黄土層を  
開拓して若い壯年谷と丘とを形成し、高さ六〇  
呎から一〇〇呎の起伏を呈する。黄土層は急斜  
面の生成を促す特性を有するので谷側は特に急

で丘は比較的狭い。此の邊の谷底は一般に平坦  
で處々沼澤性である。グラス川(Glass Bayou)、  
スタウツ川(Stouts Bayou)の二緩流は北東か  
ら南西に傾斜してヴォックスバークの排水をなし  
てゐる。此の兩川の分水線が河成谷崖の頂上に  
達する處は比較的廣い平地になる。此の好適な  
る地面は容易に東部へ達することが出来る丘の  
末端に當り、此の町の最初の核心の一部が營ま  
れた處である。ヴォックスバークは初めミシシ  
ッピー河の直接の岸に位置したのであるが、今は  
さうではない。一八七六年四月二十六日の大洪  
水で河は突然屈曲の内側の狭い頸部を破つて流  
れ其の結果としてヴォックスバークが高燥地とな  
つた。其の後數年間は町にボートを通ずること  
も出来なかつたが、一九〇三年政府の技師が再  
びヤゾー河の流を導いて水運の便を得しめた。  
二、ヴォックスバークの建設 都市の形態は  
種々な方法で實現せられるが、一旦建設せられ  
ると原型が根本的に變更せられることは殆んど  
ない、故に都市の各部分は多少共都市の發展を

第二圖



グイックスバーグ町域の地貌

かつた。處が十八世紀末の數年間此の地方の主權がまだ佛・西・米三國間の係争となつてゐる間に多くの拓殖地計畫が少くとも圖上で行はれた。グイックスバーグの現位置を圖上に要求した者の一人にアンドリウグラス (Andrew Glass) がゐた。彼の要求は此の地方が確實に米國の支配に歸した一八〇三年に承認された。之は河道に大體平行の方向を有する正方形の地域であつて河道は其の當時西二五度の方向を取つて流れ、此の許可地は北東一八度の位置に置かれてあつた。此の方位はより永久的な河成谷崖に斜に取られてゐて其の存在を明かにしてゐた。此の地域は後にニューウエットヴィック (Newet Viek) に歸したが彼の拓殖地は北東數哩に及んで居りグラス地域を彼の奴隸區域に利用した。茲に市街を建設せんとする考は明かにヴィックに始まつたのである。一八一九年に彼の死する前に彼は河岸の財産を編成する爲に計畫を立て、其の案の實行を彼

反映してゐる。即ち其の建物の建築様式のみならず、其の配列の形式に現れてゐる。グイックスバーグに於ては例へば町の北部の基督目型は南部の混雜した型とは非常に異つた時代に其の起源を有するのである。

グイックスバーグ地方の土地が最初に利用されたのは佛蘭西人と西班牙人による城堡の建設に始まるが、之には何等確固たる拓殖地を伴はな

の息子に命じた。かくて一八二四年にグラス地域は區劃せられ茲にヴィックスバーグが建設された。即ち最初の許可地の外形に一致した碁盤目型の都市計畫が採用されたが、之は單一の大きさと形の分譲を可能ならしめる非常に實際的な考案であつた。其の一區の面積は二エーカーであつて一チェイン即ち六六呎の廣さの道路で分けられてゐた。併し郡役所の處で交る二つの道路は幅が一〇〇呎で、其の中北東即ちヴィックの古い拓殖地からヴィックスバーグに至るものは丘の延長に従つてゐるので碁盤目型と交り切るのを許され、西端の道と河との間の土地は商品陸揚地として一般の使用に残された。

此の地に碁盤目式の都市型を適用したことは若干興味ある結果を生ぜしめた。即ち丘の延長を無視した結果町を通過するには急坂を上下するか又は幾つかの角を曲らなくてはならない。唯郡役所で會する二つの廣い道路だけは異例である。之は決して商業の目的に使用されたことはなく、今日商業區の中心に在る狭い密集せる

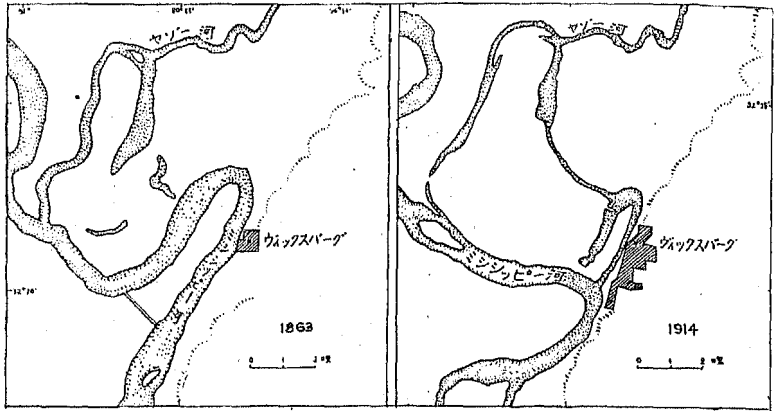
道路と著しい對照をなしてゐる。

### 三、南北戰爭終了時代のヴィックスバーグ

此の都市型の道路に沿へる發展時代は南北戰爭を以て終りを告げた。グラント將軍の技師が攻撃用として畫いた明細な地圖に一八六三年のヴィックスバーグの擴がりに關しての貴重なる證據を残してゐる。此の地圖は原始の町の東端が少しも發展を示さないでゐた間に北東と南西には新に増加した二三の新道が出來、それが碁盤目型の上にも延長したこと及び新しい細區劃は初め東方に幾分か離れた谷底に造られたことを證してゐる。郡役所の北と東の道路に沿つて小商業區があつた。併し主な商業中心は現在の如く此の町を南北に通過し得る唯一の連結道路なるワシントン街に沿ふものであつた。此の商業中心地の周圍は住宅地で繞らされてゐて二箇所にある優良住宅地區を含んでゐた。

市街發展の第二期は南北戰爭の終了に始まる一八六〇年に町は人口四、五〇〇を有したが、其の中白人は三對一の割合で多數を占めてゐる

第三圖



ミシシッピ河及ヤゾー河とヴィックスバーグ

た。一八七〇年には人口約一二、五〇〇となつたが、其の五％は黒人であつて是等の數は根本的の變化を物語つてゐる。南部各

都市に於ける南北戦争前の上流階級の生活は新に自由になつた黒人と復興の騷動の裡に幸運を求めんとして來る數千の北方人との侵入によつて突然破壊された。之は無作法な要素が勢力を占めた混亂の時代でもあり又整頓の時代でもあつた。かくて其の結果は明かに町の外貌に見られ小區劃は混沌を來し、原始市街の南部は特に甚だしく、又個有の街路型と辛うじて大街路型に完成したものとの錯綜、目貫きの南北街路ワシントン街等を含む不規則に廣い街路などを濫成したのである。

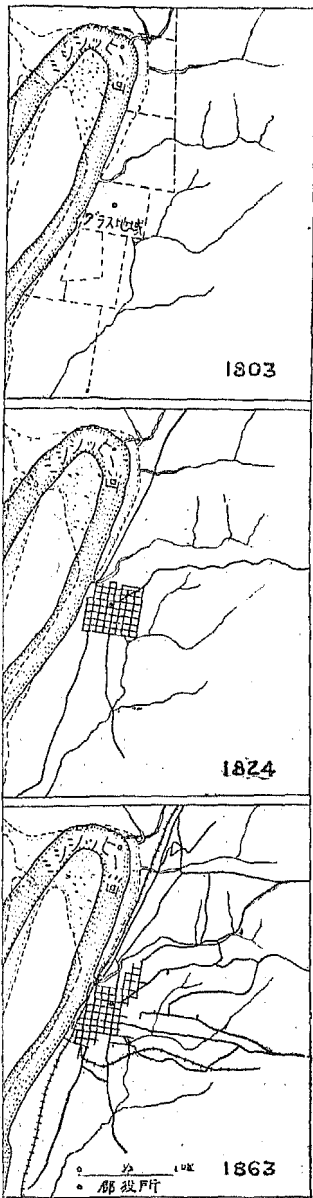
此の時代を通じてヴィックスバーグは單一機能の一商業町であつた。一八五〇年より以前でさへも鐵道工場と繰綿機械工場があつたので何となく工業的の風情を興へたが、しかし商業が主要な機能であつて最初は河の東端から一五又は二〇哩の半徑以内の拓殖地との間の小賣が主なものであつた。併し主要交通線上に在る此の町は後に中央ミシシッピ河の大部分を通じて卸賣活動に商業戦略上の好位置を得た。其の卸賣

は附近の小都市の小賣品を供給するのであつたが主要部分には棉花の賣買・蒐集及び船積であつた。

然るに若干の出來事の合同原因によつてヴィクスバーグの位置の價値を減少せしめ十年間の急速な發展を妨げるに至つた。ニューオルリーヌスの商業から判断し得るならば、河川交通は南北戦争の直前に最高潮に達したのであるが、戦後に於てさへも人々は鐵道の有すべき効果を充分に實現しなかつた。河岸都市のナッチュスや

ヴィクスバーグの如きは鐵道の中心地としては全く不利な處であつた。此の河川運輸の衰頹と共に一八七六年に河道の變遷があつた。若しも此の變遷が二〇年も早く起つたならばもつと重大な惡影響を來したことであらうに、此の時は其の結果に於て左程でもなかつた。之に加へて一八七八年の激烈な黃熱病流行は黒人間に著しい影響を與へ、之によつて一八七〇年に一四四三であつた人口が一八八〇年には一一、八一四人に減少した理由が容易に諒解出来る。

第四圖 ヴィクスバーグの初期に於ける發展段階



第十九世紀末の二五年間はヴィックスバーグの沈滞期であつた。鐵道線の中心に在るジャクソン (Jackson) は次第に擴大してヴィックスバーグの名聲のみならず卸賣機能を奪ふに至つた。更に運輸能力の増大は棉花市場の大分散を促し、ヴィックスバーグは當初は指導的の役を勤めたが遂には多數の市場中の一たる地位を保つに過ぎなくなつた。棉花生産地帯中の大生産地、特に肥沃なヤズー、ミシシッピーから北部の生産を反映する代りにヴィックスバーグは漸次ワローレン郡 (Warren County) で生産される地方的棉花によるやうになつた。

四、現在のヴィックスバーグ町 一九〇〇年から一九一〇年に至る間にヴィックスバーグは人口一四、八〇〇から二〇、八〇〇に増加した。一九二〇年には一寸減少したが、一九三〇年の國勢調査では二二、九四三となつてゐる。此の期間の増減の大部分は黒人の人口に因るのであるが、白人は次第に増加の傾向に在る。此の間ジャクソンは確實に指導的地位に漸進し、一

九三〇年に四八、二八二を示し、同時にナッチェスは遙かに下位に下り一三、四二二となつた。ヴィックスバーグとジャクソン二市の此の増加は主として重工業の急速な進歩の結果である。

ヴィックスバーグには現在三九種の工業が行はれてゐる。此の中二二は地方的工業で、残りの中九は家具・床板・箱・條板・桶・橈等の如き木材加工品を生産するもので、木材の大部分は河で運搬され得るので便利である。他の八工業の中には繰綿機械工場・壓縮工場・棉實油工場・蒲團工場などを含み、二つの鐵道及び政府護岸修築用の鐵道工場や機械工場が含まれてゐる。第十九世紀の單一機能の商業都市に是等の重工業を加へたものが現在の多機能商工業都市を生み出したのである。

五、商工業地區 此の町の三%を占める商業中心區が現在に於てもあり又發展の初期以來存した場所はワシントン街に沿ふ處で其の端は河成谷崖上に達してゐる。此の商業中心區は小賣店地區をも含んでゐて都市や郊外村落への奉仕





を役目としてゐる。之は三、四階の建物によつて特徴づけられてゐるが、其の一般的高さの點では八階の銀行及事務所の建物や二〇階のホテルに凌駕されてゐる。是等の商館は一般に煉瓦建で其の様式は米國東部都市に於ける七〇階八〇階の大建物に對して少くとも特色あるものである。此の様式の建物が狭い街路を隔て、相對し今や自動車電車で滿ち電線が蛛網の如く張り廻されてゐるが、其の主要形状は近代的の新建を持たない古式都市に似てゐるものゝ一である。唯中心地區の大部分は他の地區よりも多くの建築物を有し、其の高さに於ても著しい。

町の全地域の二%を占めてゐる卸賣區域は、河成谷崖の低い斜面並に河邊の狭い氾濫原に沿つて其の大部分は疑もなく衰頹の風情を示してゐる。建物の多くは一階建の煉瓦又は波狀鐵板小屋であつて嘗て卸賣活動の發展時代に建てられたものであるが、現代是等の古い建物の約半分は空家である。

ゾックスバーグの卸賣機能の維持は政府の補

助金による河川交通の更新的活動に伴はれて來た。ミシシッピー、ウォリヤー貨物船航路は町の南にミシッピー河に浮船渠を有し、此の船渠、卸賣地區及び工業地區との間を鐵道で連絡してゐる。此の航路の賃金率は各都市に於ける船車連絡の費用を含めても全鐵道賃金率より安くなる様に米國州際商業委員會 (Interstate Commerce Commission) によつて決定されてゐる。此の町の船積は一九一九年の八萬噸から一九二八年の二九四萬噸に増加した。

安い地價と交通線に接近してゐることは町の重工業の所在に取つて特に必要な條件である。是等の條件は大體都市の周圍に見出され他に利用出來ない様な低濕地にも見出される。ゾックスバーグの場合は工場の一羣が町の行政區域内の卸賣地區の南の氾濫原に在る。他の一羣は木材加工工場九の中五を含んでゐるものでヤブー河の曲り角の向ふの二、三哩北方に在る。其餘の多くの工場は町の南方五哩も離れた處に在り是等の遠く外部に存する雜工場は明かに町の

一部をなし、かゝる地形的分離は其の間に織り込んでゐる不適當地區による。多くの地方的輕工業は全市の特別な位置に分散してゐるが、主に商業中心區の周圍に分布してゐる。

六、住宅地區と空地　　ヱックスバーグの全面積の七八%は住宅地である。之を研究の便宜上四區に分けると貸間區・優良住宅區・普通住宅區及び黑人住宅區となる。是等四階級の配列は概して言へば商業中心地の周圍をなす同心圓の一群である。此の單純な環狀形式は丘や谷に調整することによつて比較的變化せられる。例へば黑人區の二〇・四%は谷に、唯一二・五%だけが丘の頂上に在る。

主として黒人の住んでゐる細區劃住宅地に普通の白人の家もあるが、此の地區は丘に沿ひ東方に無くならず、丘の頂上の道路によつて町の中心部に連絡してゐる。町の行政區域の限界は國軍軍事公園の内側であるが、此の公園の外側は

町外で、廉價な土地と税の爲に茲に比較的密集した幾つかの雜工場があつて町域内の丘の頂上の發展に似たもので、是等は地理的に見た都市の内部に總て包含される。南部の空地の存在を除いてヱックスバーグは比較的緊密につまつて居り、町の重要部に存する若干の空地は占居が殆んど不可能な黃土の垂直に近い崖から成る土地か又は鐵道近接地で主として工業的利用に價値ある氾濫原から成つてゐる。恐らく急激に發達する都市は其の都市地域内に斯くの如き非發展の土地を含み、反對に徐々に發達するか又は靜止的の都市は其の市域外に擴がらずに右の様な域内の空地を充す傾向あることは穩健な通則であらう。

之を要するヱックスバーグの將來は河川交通の發展と東は黃土高地及び北はヤゾー河氾濫原の一層生産的利用に依存するものと言ふことが出來よう。(完)